

林 重雄¹：静岡県御前崎市にゾウリエビのニスト幼生の漂着Shigeo HAYASHI¹ : *Pariibacus japonicus* second strike larvae, stranded on the beach of Omaezaki City, Shizuoka Prefecture, Japan

セミエビ科のゾウリエビ *Pariibacus japonicus* の体は上下に偏圧され、ぞうり型をしている。生時尾扇は腹の下面に折り曲げて生活しており体長は13cm前後、水深10~30mの岩や礫の多い海底に棲み、日本では千葉県以南の太平洋側に分布する(内海 1964 : 三宅 1982)。セミエビ科のエビでは、成体は沿岸域の岩礁部や砂地で底生生活を送り、卵が孵化して生まれたフィロゾーマ幼生は外洋でプランクトンとして浮遊生活を送り、脱皮を繰り返し成長する。沿岸へ戻るときには、フィロゾーマ幼生からニスト幼生に変態している。ニスト幼生から脱皮すると、ほぼ成体と同じ形態の稚エビとなり、生活も底生生活となる(長谷川 2019)。

筆者は2020年12月13日、静岡県御前崎市御前崎海岸で漂着物の調査中にゾウリエビのニスト幼生の漂着を確認した。当日午前11時の天候は晴れ、最寄の御前崎のデータによれば気温13.8℃、西の風、風速10.2m/sであった(気象庁ホームページ)。ゾウリエビのニスト幼生は当日の高潮線上に、他の点在する漂着物と一緒に漂着していた。

ゾウリエビのニスト幼生の体長は尾扇が直角に曲がった状態で50mm、伸ばした状態で64mm、最大幅は33mmであった(図1)。表面の色彩は、半透明な暗褐色を呈しており、光沢があった。ゾウリエビのニスト幼生は乾いてミイラ状態で、質量は1.8gであった。

ゾウリエビの漂着していた高潮線にあったほかの漂着物には、ルリガイ、ツグチガイ、タカラガイ類など貝類、ジオクレアの種子、ココヤシの果実が見られた。北西風が強まる冬場の太平洋側で、このような南方系植物種子・果実の漂着が見られるのは、静岡県最南端の地で、遠州灘と駿河湾とを隔てるように大太平洋に突き出し、漂着物のトラップとなる御前崎の地形的特徴による。

当地から東におよそ50kmの位置にある伊豆半島の下田市では、イセエビ漁の刺し網にゾウリエビの成体が混獲されることがあり、地元では「ばんばえび」と呼ばれている(長谷川 2019)。

北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、記録をまとめるにあたりご教示いただいたのでお礼申し上げます。

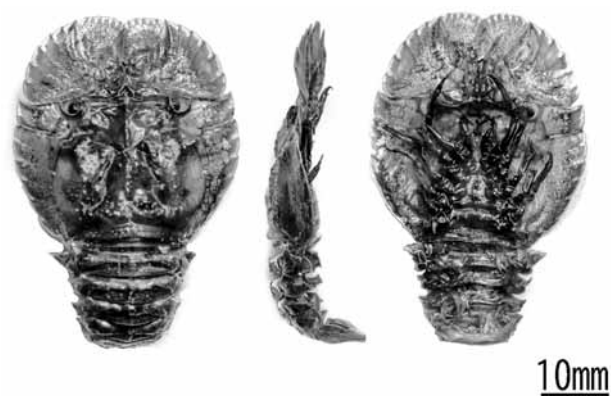


図1 ゾウリエビ *Pariibacus japonicus* のニスト幼生

引用文献

長谷川雅俊. 2019. ゾウリエビのニスト幼生. 静岡県水産技術研究所伊豆分場だより. 357 : 17.

気象庁ホームページ. (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)

(2021年8月20日閲覧)

三宅貞祥. 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑 (I). 261pp., 保育社, 大阪.

内海富士夫. 1964. 原色日本海岸動物図鑑. 168pp., 保育社, 大阪.

(Received Sept. 1, 2021; accepted Oct. 5, 2021)

¹〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan